

しおさいかわら版

NHK交響楽団いわきアンバサダー レジデントシリーズ2023

フルート奏者 梶川真歩さんといわきの街を旅する

日本最高峰のオーケストラのメンバーが、クラシック音楽の魅力伝えるアンバサダーとなって、市内各所で素敵な音楽をお届けしている企画があります。今回は第三弾「小名浜の海を堪能」がアクアマリンふくしまにおいて9月18日に開催されました。

梶川さんの他、成田達輝さん(ヴァイオリン)、居福健太郎さん(ピアノ)の3名で、水をテーマにした

曲の演奏が始まると、大水槽の中の魚たちが反応し逆回転で泳ぎはじめ、会場は心地よい音楽と水の世界が広がり、集まった観客はしばし外の暑さを忘れ、癒しのひと時を過ごしました。そのほか、小名浜では魚市場・冷泉寺・いわきららミュウ・いわき信用組合本店と合計5か所で演奏を聞くことが出来ました。クラシックを堪能できたステキな時間でした。



▶いわき信用組合
▲冷泉寺
アクアマリンふくしま
いわき・らら・ミュウ
小名浜魚市場



発行所
小名浜まちづくり
市民会議
TEL: 52-1275
発行日
令和5年10月20日

小野晋平翁 没後80年 特別企画③ 築港の先人…小野晋平と賢司… 小野 浩

小名浜商港起工式は、昭和4年(1929)5月22日、内務省仙台土木出張所坂本所長の挨拶で開式した。式典会場は、小名浜測候所前海岸(現在のイオンモール北側)に16間(約29m)四方のテントが設営された。海に面した祭壇に、内務大臣代理土木局長、仙台税務監督局長、東京・横浜の土木出張所長、加勢県知事、貴族院・衆議院議員、県会議員が参列(貴賓席、それ以外の招待者・関係者(一般席)を含めると約一千名の参加者だった)。

神官の祝詞の後に、基石を海中に沈定した。沖合では一列横隊に並んだ満艦飾の漁船約百隻が分列式を行ったのだ。富ヶ浦公園の大園遊会会場から勇壮な昭和の絵巻が見えたことだろう。祝賀の火花は、昼間50発、夜間50発打ち上げられた。自動車行列をなし近郷近在の人たちも押し寄せ、この日小名浜は空前絶後の賑わいだっただ。

小野晋平は当日、磐城時報の取材に「亡父賢治の意志を継いだ商港運動」を「小名浜漁港が完成した時、商港の基礎はできた。今回の起工式までには歴代の知事、の努力と郡選出の各代議士

並びに各県議が一大奮闘したこと、町当局者並びに有志等が寝食を忘れ、挙町一致して多年実現運動に邁進し、巨額の私財を投げ出し運動を容易ならしめた結果として、その実を結んだものである。」と振り返った。さらに「小名浜町の将来のためばかりでなく、本県産業界に幾多の好影響をもたらすと思われる。小名浜町についても生産工場の建設が計画され、セメント工場、大製板所、海産物工業等が発達するのではな



きない涙ぐましい奮闘だった。寸時も忘れず自ら私財を投じ常に自分を鞭撻し同時に全町民に向かって絶えず呼びかけて挙町一致の歩調を少しも乱さず陣頭に立っていた。今日、大祝賀会を自分達が行うことになったのは一代の光栄であるが、私はこの三氏に仕えただけに感激無量である」と語った。

昭和4年5月の起工式
地域の期待を担って盛大に催された

全体会議9月

いわきFCスタジアムの未来

9月26日、まちづくりりステーション小名浜において全体会議が開催されました。今回は、(公社)いわき青年会議所理事長 高橋大吾氏をお招きし、「いわきFCスタジアムについて」お話を伺いました。

高橋氏は、新スタジアム検討委員会『IWAKI GROWING UP PROJECT(IGUP)』のコンセプト・機能等を検討する「分科会I」のメンバーとしてご尽力されています。「分科会I」は多種多様な多士済々なメンバー22名で様々な視点から、スタジアムを建設することでスポーツとまちづくりが共創し、いわきの未来を創造できる

ように議論をしています。さらに「ユースプロジェクト」を立ち上げ、10代、20代の若い世代が考える地域の未来像や、新スタジアム構想などをテーマに意見交換を楽しく行うユースフォーラムを開催しています。「IGUP」の活動は、いわきFCオフィシャルサイトでも確認することができます。

後半は、会議に参加したメンバーで、新スタジアムについてブレインストーミングし、活発な意見交換をしました。サッカーだけの施設ではなく、様々な複合施設を併設することにより365日賑わいのある施設にすること、さらに、スタジアムと各地域や現存の施設を結ぶ公共交通を充実させて、インバウンドさせることが重要であることなどが重要です。



講師の(公社)いわき青年会議所理事長 高橋大吾氏

スポーツとビジネスの発展、また子どもたちのためにアカデミーを駆使し人材を育てる場として、いわき全体が魅力ある市になる新スタジアムが出来るように、小名浜まちづくり市民会議では意見を出していきたいと思っています。
*現段階では建設地など未定です。

江名の町 マリンフェスティバル開催

10月1日、江名の町復興推進協議会主催による「江名の町マリンフェスティバル2023」が江名港で開催されました。釣り大会から始まり、「いわきの海を体験しよう」遊漁船体験乗船があり、多くの来場者で賑わいました。キッチンカーなどが出店し、干物の炭火焼き試食体験は人気がありました。同時に開催された「ビルフィッシュトーナメント2023」ではマカジキが釣り上げられ、写真撮影など大いに賑わっていました。

小名浜港を知ろう

太平洋を眼下に望み、育ってきた私たちです。しかし、小名浜港を知らないことばかり。連載中の小野晋平翁は「築港の父」と称されています。現在の小名浜港について少しずつ学んでいこうと思います。

歴史はさかのぼり、江戸時代は幕府への上納米、明治時代以降は石炭の積出港として繁栄しました。小名浜港は、地域や暮らしを支える貿易の玄関口になるのです。現在の日本は、エネルギー資源・食料を輸入しています。その貿易の99.5%は船での輸送なのです。



写真提供：いわき市

小名浜港は「工業港」の性格も持っている。寄港の船は貨物船がほとんどです。積み荷は石炭が最も多く、次いで金属鉱・重油・セメント・化学製品と続きます。
小名浜港が国際貿易港として、ご存知でしたか？
次号に続く

随時FBに活動状況をアップしています。見つけたらぜひ、いいね！してください。
[Facebook icon] [いいね! button] [QR code]

マイメイドのささやき

私が子供だった頃... 秋の夕暮れ時、母にいつも文句を言っていた。
「今日も秋刀魚、肉食べたい！」
あの頃の秋の食卓は、秋刀魚のポーク焼、塩焼き、秋刀魚鍋、佃煮...etc.
夕暮れ時の匂い、夕飯が分かる匂い、飽き飽きして、ウーンザリする...。それが日常だった。
昨今、涼しくなると、今年も秋刀魚さんに何回逢えるかなあと、ふと思ってしまう。
子供の頃の食卓に憧れるのは、少しの寂しさ、懐かしさと、何とも言えない想いだなあり...。
よきよき
H・S 笑

小名浜まちづくり市民会議とは... 小名浜に住む人、小名浜を心から愛する人、小名浜を輝かせたいと思っている人々が集まり、関係機関・団体と協働で小名浜のまちづくりを進めている団体です。

人力戦艦!? 汐風凧風 YOUTUBE 配信はこちらから [QR code]



小名浜まちづくり市民会議では随時、会員募集しています。学生さんも、働くお父さんも、子育てに励むお母さんも、年齢は問いません。皆さんと一緒に素敵な未来の小名浜を創りませんか？
年会費 個人会員：3000円 企業会員：30,000円 団体会員：12,000円
お問い合わせ・お申し込みは：いわき市小名浜字本町 11-1 (まちづくりステーション小名浜)
TEL：52-1275 FAX：52-1415
http://www.onahama.jp/ E-mail：info@onahama.jp